

西之表港中央ふ頭に巨大なクルーズ船が頻繁に停泊するようになりました。昨年11月を皮切りに、今年は年末までに8回。来年の寄港は15回を予定しています。すっかりなじみになったバイキングエデン（4万8千トン）をはじめ、飛鳥Ⅱ、ミツイオーシャンフジ、飛鳥Ⅲと、豪華客船が毎月のように訪れ、港を華やかに彩ります。

昨年11月催行の案内書（バイキングエデン）を見ると、神戸港を出発し、8日間に新宮・熊野く別府く種子島・屋久島く福江（五島）く釜山（韓国）をめぐり、種子島は宇宙センターや千座の岩屋、西之表では喜志鹿崎灯台、鉄砲館などの北部観光や焼酎会社見学・試飲のツアーが組まれています。今後、市内南部観光の開発に力を入れる必要があると感じます。

種子島は、海を舞台にした出来事が多く、港が町の発展に寄与してきたことを改めて思います。16世紀の鉄砲伝来でポルトガル人たちが滞在したのは赤尾木港（現西之表港）に近い慈遠寺（現八坂神社）の宿坊と伝えられます。

私事で恐縮ですが、新聞社を早期退職して帰郷したのは2012年夏。その5年後の市長選挙を前にした秋、子らの巣立ちを見極めた妻も島の住人となり、知り合った友人たちと始めたのは、ごみ拾い活動でした。あっぱらくらんどや市民体育館周辺などを回りましたが、最も多かったのは西之表港です。

結成したボランティア団体「なっとししょう会」（2017.7.23）の会員は約40人。会のノートなどによると、活動は昨年12月までに30回を超えています。参加者は10人前後で始まり、多い時は20人。集めたゴミは各回10キロ〜180キロを軽トラックで清掃センターに運びました。

病で体力が衰えた妻は6月、帰らぬ人となりましたが、天上から港町の様子を見守っていることでしょうか。



停泊するバイキングエデン＝4月、西之表港